

アートで候。

会田誠

山口晃

展

2007.5.20 ~ 6.19

上野の森美術館

〒110-0007 東京都台東区上野公園1 - 2

この度、産経新聞社と日本美術協会・上野の森美術館は、5月20日(日)から6月19日(火)まで東京・上野の森美術館において「アートで候。会田誠 山口晃展」を開催いたします。

現代アート界のツートップが上野に

画力の凄さと発想の鮮やかさ、超絶かと思えばびっくりの脱力まで、まるで見たことのない新しいものを創り出し、一度みたら忘れられない「発想(idea)」の職人、会田誠。超・現実的な描写と機知にとんだ画法で、伝統的な大和絵の技法を現代美術に盛り込んだ「技法(technique)」の職人、山口晃。この二人による一度で二度おいしい展覧会が「アートで候。会田誠 山口晃 展」です。本展は、会田と山口、それぞれの学生時代の作品からこの展覧会のために描かれた新作までを展示。絵画、立体、映像を合わせ約70点で構成されます。いまや、現代美術ファンのみならず、老若男女、東西南北、ワールドワイドにファンをもつ二人のおりなす不思議な世界を思う存分堪能していただけることでしょう。

出会いの「こたつ」。

二人の出会いは1997年6月、ミヅマアートギャラリーで開催された会田誠キュレーションによるグループ展『こたつ派』にはじまります。昔から狭い日本家屋の空間を有効に使うために日本人独自の生活の知恵で発明され、愛用されてきた『こたつ』は、このとき「欧米の規範への恭順を強いる現代美術」とその対極にある「不自然な伝統回帰」双方への違和感の象徴として使われました。

この展覧会には、当時「無名の新人」だった山口晃も参加し、多くの美術ファンに会田誠という名前を定着させるとともに、山口晃の衝撃的デビューを印象づけるものになりました。

それから10年、二人は着実に力をつけ、他に比類のない作家に成長し、村上隆、奈良美智に続く現代アート界のツートップとして、さらなる活躍が注目されています。10年という節目に、成長した二人が再会して行われる本展。こたつからとびだした二人の向かう先をその目でぜひ確かめていただけたらと思います。

会田誠は新作を多数発表！あの「大山椒魚」や「ジュースーミキサー」も！

会田の本展での目玉は高さ4メートルを越える新作「滝の絵」です。南アルプスをイメージし、たくさんのスクール水着の少女たちが滝で遊ぶ構図からなるその作品は、これまでも多くの少女たちが描かれてきた会田作品のなかでも新たな代表作となることは間違いありません。さらに、出品を予定している新作3、4点についても、その類稀なる画力や超絶な発想に加え、「“藝術の神様”に提出する宿題」と本人の弁にもあるように、常にチャレンジしつづけるその精神や決意とともに展覧会オープンの直前まで制作が行なわれます。

また、日本で初めての大規模な国際展『横浜トリエンナーレ2001』で発表されて以来、どこにも展示されることのなかった「ジュースーミキサー」(2000 - 2001)が6年ぶりに展示されるほか、2004年、六本木の森美術館で開催された「六本木クロッシング」で発表され、『日本古代文学入門』(三浦佑之著)の表紙にも使われている「大山椒魚」(2003 表参照)や日本美術史上タブーとされてきた「戦争画」をモチーフにした作品群「戦争画 RETURNS」の中から「^{にゅうようくうばくのず}紐育空爆之図」(1996)、「題知らず」(1996)の2点も出品されます。

学生時代のデッサンから今回の新作まで、常に斬新な発想で作品を制作し続けている会田の作品がここまでそろうのは初めてのことであり、日本の現代アートシーンにおける貴重な機会として、多くのアートファンを熱狂させることとなるでしょう。



左)「大山椒魚」2003年 パネル、アクリル絵具 314×420cm 撮影 木奥恵三

右)「紐育空爆之図(戦争画 RETURNS)」1996年 襖、蝶番、日本経済新聞、ホログラムペーパーにプリント・アウトしたCGを白黒コピー、チャコールペン、水彩絵具、アクリル絵具、油性ペン、事務用修正ホワイト、鉛筆、その他 169×378 六曲一隻屏風 零戦CG制作 松橋睦生

Courtesy of Mizuma Art Gallery ©Makoto Aida

山口晃は初期作品「洞穴の頼朝」から大型新作まで、期待に背かぬラインアップでむかえうつ！

山口は文殊菩薩が童子を従え、メカニカルな波濤さか巻く海を越えて日本に渡来する様を描いた4メートル超の新作を発表します。また、「横浜トリエンナーレ」の向うをはった、一人国際展(?)「山愚痴屋・澱エンナーレ」(2003年ミヅマアートギャラリーで開催)のコンセプトをそのままに、新作で構成された「山愚痴屋・澱エンナーレ2007」を展開。そのほか日本橋三越創業100年のメインビジュアルとして描かれた「百貨店圖 日本橋三越」(2004)や六本木ヒルズのグッズでおなじみ「東京圖 六本木昼図」(2002 表参照)をはじめとした「街シリーズ」、槇原敬之のCD「LIFE IN DOWN TOWN」のジャケット原画、2006年開催した個展「ラグランジュポイント」で発表したパノラマ作品及び「四天王立像」も展示され、その細部にまではりめぐらされた巧妙な仕掛け、遊び心、サービス精神溢れる作品の数々が会場に一堂に紹介します。



上)「東京圖 六本木昼図」 2002年 紙にペン、水彩 40×63cm 撮影 木奥恵三

右)「四天王立像『廣目天』」 2006年 カンヴァスに油彩、水彩、墨 194×97
撮影 宮島径

Courtesy of Mizuma Art Gallery ©Akira Yamaguchi



会田誠プロフィール

1965年、新潟県生まれ。1991年東京藝術大学大学院美術研究科修了後、レントゲン藝術研究所で開催された「フォーチュンズ」で芸術家としてデビュー。

卓越した技法で描かれるその作品は一作品一コンセプト主義とも言うべき発想とメディアの選択の妙、そのコンセプトを成立させる職人的ともいえる技巧が絶妙である。絵画のみならず、写真、立体、パフォーマンス、インスタレーション、小説、漫画、都市計画、近年では舞台美術を手掛けるなど表現領域は多岐にわたる。国内外への展覧会に多数参加。作家自身も歴史文化、サブカルチャーへの造詣が深く、アート界のみならず各界のクリエイターに影響を与えている。

ミヅマアートギャラリーでの個展を中心に、主なグループ展に「横浜トリエンナーレ2001」、「六本木クロッシング2004」、また、会田自身の制作を追ったドキュメンタリー映画「会田誠」がある。

5月6日(日)まで森美術館で開催されているグループ展「笑い展 現代アートにみる『おかしみ』の事情」、また5月13日(日)までは広島市現代美術館で開催のグループ展「ポートレートセッション展」にも出品。

山口晃プロフィール

1969年東京生まれ。群馬県桐生市に育つ。96年、東京藝術大学大学院美術研究科修了。97年「こたつ派」展(ミヅマアートギャラリー)に参加し、一躍注目を集める存在となる。2001年第4回岡本太郎記念現代芸術大賞優秀賞を受賞。

山口の描く絵は、時間と空間を横断した超・現実主義の作品が持ち味であり、昔風の建築透視図や屏風の作品が数多く描かれている。

建物は木造、客は江戸時代の民衆、売り場や店員の容貌は現代のデパートといったように過去と現代が入り交じった百貨店の透視図を描いた「百貨店圖」、絵巻物の物語性を彷彿とさせる大作「山愚痴諦抄 - 尻馬八艘飛之段 -」等、どの作品も巧みな描写を用い、過去と現在が同居した視覚の面白さを生かしており、新旧あいまったなかで現代的な作品へ昇華し、鑑賞者の眼を楽しませる。彼の時流に流されない一貫した制作の姿勢は強い個性を持った作品を生み出し、現在、国内外で高い評価をうけている。

近年では展覧会での発表のほかに読売新聞連載のドナルド・キーン氏による「私と20世紀のクロニクル」の挿絵・題字や槇原敬之氏のCDジャケットを担当するなど、幅広い制作活動を展開している。今年3月に上野の森美術館で開催された「VOCA展2007」に出品、府中市美術館賞を受賞。

- 【タイトル】 アートで候。会田誠 山口晃 展
- 【会期】 2007年5月20日(日)～6月19日(火)
午前10時～午後6時(ただし、金曜日は午後8時まで、入場は閉館の30分前まで)
- 【会場】 上野の森美術館
〒110-0007 東京都台東区上野公園1-2
(お問い合わせ先) 産経新聞社事業局:03-3275-8906/ 上野の森美術館:03-3833-4191
- 【入場料】 一般1,000円(800円)大高生800円(600円)
()内は前売券及び20名以上の団体料金
身体障害者手帳を提示の方は無料。介護の方は通常料金
中学生以下無料
前売り券は2007年3月20日より各プレイガイドで発売開始
- 【主催】 産経新聞社 / 日本美術協会・上野の森美術館
【後援】 サンケイスポーツ / 夕刊フジ / フジサンケイ ビジネスアイ / iza! / SANKEI EXPRESS
【協賛】 大日本印刷株式会社、キヤノン株式会社
【協力】 アサヒビール株式会社 / 第一生命保険相互会社
- 【企画協力】 ミヅマアートギャラリー
- 【公式HP】 <http://www.ueno-mori.org>
【公式blog】 <http://aida-yamaguchi.iza.ne.jp/>
- 【各種プレイガイド・コード】
ぴあ Pコード:前売り687-314 当日687-315
ローソンチケット Lコード:32753

写真データ・取材のお申し込み

産経新聞社事業局(担当 木村)「アートで候。会田誠 山口晃展」(広報担当 兼平)

電話:03-3275-8906 FAX:03-3243-1800

〒100-8079東京都千代田区大手町1-7-2